

受 賞 者 の 横 顔

林 政 衛 氏



生れ；大 3. 群馬県利根郡
住所；千葉市都町 1 1 1 7
の 1 県公舎
現職；千葉県農林部技監兼
農業試験場長

経歴；昭 1 1. 三重高等農林学校農学科卒。
昭 1 5. 千葉県農業試験場に勤務，昭 2 5. 種芸部
長。その後組織名の変更により作物研究室長
（水田作・畑作），経営研究室長，昭 4 0. 千葉
県農林部園芸農産課長，昭 4 2. 農林部技監，
昭 4 4. 現職につく。その間，昭 3 7. 水稻の早期
栽培技術の確立と普及について農業技術協会長
賞，知事表彰をうけた。関東々山地域雑草防除
協議会の設立および運営に参加，初代会長（4
期）現在名誉会員。水田および畑地雑草防除技
術体系特に水田の多年性雑草防除，除草剤の空
中散布による防除技術の確立につとめた。
家庭；夫妻のほか 1 男 1 女。
趣味；テニス，碁，将棋，釣（海）。

林 田 進 氏



生れ；大 6. 熊本県飽託郡
住所；熊本県飽託郡天明村
奥古閑 1 1 7 6
現職；熊本県農政部農業改
良課 農業専門技術員

経歴；昭 1 5. 宮崎高農農科卒。昭 1 5. 華北産研
にて棉花の研究，昭 1 6. 兵役，昭 1 9. 熊本農試
にて米麦原種圃の主任，農林省指定水稻新品種
育成事業，昭 2 2. 農林省熊本農事改良実験所に
て小麦新品種育成，昭 2 6. 熊本県經濟部農業改
良課にて除草剤の普及等に従事，昭 2 8. 農業專
門技術員の職務で引き続き除草剤の普及に従事
し，現在に至る。この 1 8 年間に特に思い出に
なることは，2. 4-D の普及当初，P C P の驚
異的普及と同時に魚毒の発生，低毒性除草剤の
使用基準の確立と同時に早急なる普及。
家庭；夫妻のほか 2 男 1 女。
趣味；盆栽，庭木の手入れ。

(3) トマト

園試，栃木農試，埼玉園試，長野農試桔梗ヶ
原分場，愛知園研で行なわれ，埼玉のみ電熱暖
房ハウス，他は露地マルチであった。その結果
埼玉で薬害を認めたほかは異状なく，長野では
収量も初期・全期とも増とされており，有望と
してさらに検討されることになった。しかし除
草効果が，薬剤単用にまさるとしている場所は
なく，この資材そのものの評価である。

すぎるという批判もあり，自根株とつぎ木株（
強）で薬害の出かたが異なるともいわれるので，
試験条件をさらに整えて再検討するというこ
とになった。つるによって伸長する性質の作物に
対して，この種のフィルムがどの程度の実用性
を持つものか，接触害を考えた場合，やや疑問
ではある。

スエップ普及会が新発足

(4) スイカ

園試，茨城園試，埼玉園試人間川支場，愛知
園研，熊本農試（神奈川園試三浦分場実施中）
で担当した。愛知を除いて全般に除草効果を認
め，生育障害もなく有望としている。愛知では
ホットキャップをかけているので，そのため
ではないかとされた。またシートが全般に薄手に

スエップ剤の研究開発を行なってきた「スエ
ップ研究会」は、従来、日本農薬（株）と日産
化学工業（株）で結成されていたが、新たに北
興化学工業（株）も加え、2月1日付で「スエ
ップ普及会」として新発足した。なお、同普及
会事務局は、日産化学工業（株）農薬事業部で
行なう。

鈴木 英 男 氏



生れ；大6. 栃木県塩谷郡
住所；宇都宮市鶴田町

1982の12

現職；栃木県農務部普及教
育課 特別専門技術員(補)

経歴；昭10. 宇農卒。昭14. 栃木県農業試験場
助手，以後同場種芸部水稻係主任技師，種芸部
長，農業改良研究員を経て昭42. 現職につく。
その間，水稻2,4-P A, M C Pの使用法，水
中2,4-P Aによる薬害発生の確認実験，陸稻
C M U, C A T, P C Pの使用法（とくに土壤
間差異），水稻早期栽培におけるP C P系除草
剤の使用法，水稻乾田直播栽培の除草体系の実
用化，県内水稻移植栽培における地帯別除草体
系基準の策定。現在，県内水稻奨励除草剤使用
基準の編集，稚苗田植機栽培，移植栽培等の除
草剤および除草体系の普及に従事，稚苗移植除
草剤の急速な普及をみる。

家庭；夫妻のほか2男（大・中学在学中）。

趣味；庭木の手入れ程度で，とくにない。

野 原 勇 太 氏



生れ；明38. 香川県大川郡
住所；東京都八王子市長房
町1958

現職；日本特殊農薬製造株
農薬研究所嘱託，千葉大

園芸学部講師併任

経歴；大12. 香川県立農林学校卒。大12. 農商
務省農事試験場幾内支場に入場し育種専攻，大
14. 東大農学部植物病理学教室に入室し，植物
病理学専攻，大15. 旧帝室林野局林業試験場勤
務，昭24. 機構改革に伴ない農林省林業試験場
浅川支場勤務，昭29. 林業試験場樹病研究室長，
昭32. 秋田支場釜別分場長，昭38. 東北支場保
護部長，昭41. 退官，昭42. 現職につく。昭和
初期から終戦数年後まで恩師故長谷川孝三博士
と共に笹枯殺剤の研究に専念，特農より笹枯ら
し，林野共済会よりクロシウムとして製品の創
製，市販をみるにいたる。

家庭；夫妻のほか5女，孫3人。

趣味；テニス，菊作り，庭木の手入れ。

編 集 後 記

冬のほとぼりからさめたのか、雑草もそろそ
ろ活動しはじめている。

子供の頃、兎に与える草を摘むのに、寒い北
風の吹きつける野道をさまよい歩いた頃の思い
出が、なつかしく思い出される。これらの雑草
も、除草剤の出現によってコントロールされて
いるためか、昔の雑草とは、大分異なっている
もののように思われる。

さて、植調才3巻才11号は、各種の記事を満
載する心算で編集計画をたてたのであるが、取
材がこれにともなわず、期待にこたえられなか
ったことは、まことに申しわけないと思う。除
草剤の利用、普及に従事されておられる方々に
は、まことに物足りないことと思うが、今後当
誌を育ててゆくために、何とぞご意見をお寄せ

いただければ幸いである。

これらのご意見を糧として、読者の皆様のご
期待にそいうように編集し、発行してゆきた
いので、絶大なご支援をお願いする次才である。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

電話 東京(03)502-4188~9番

昭和45年2月発行

植調第3巻第11号 ￥70(送料85)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党

発行人 植調編集印刷事務所 田 口 宏

東京都豊島区池袋本町4丁目49番3号

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (986) 1063番